

編 集 後 記

昭和57年「島根くにびき国体」でボランティア活動（奉仕活動）が県内各地で気運が高まっていた中、翌58年に「ともに生きる風土」を創りだすため「出会い、ふれあい、語り合い、協力しあう場」を根付かせていくことを目的として、松江市社会福祉協議会内に松江市ボランティア協会が発足し、6団体で活動を始めた。平成7年（1995年）に「阪神・淡路大震災」が発生し、137万7,000人がボランティアとして全国から駆けつけ、「ボランティア元年」という言葉を生み出した。全国的なボランティア気運の高まりが、松江市においても拡がりを見せ30周年を迎える現在では100団体を超える大きな組織へと発展した。

発刊にあたり、編集委員会を平成26年6月6日に立ち上げ、各会員への原稿依頼と前回20周年から30周年の間の資料収集を行った。10年とは言え過去の資料が全て完璧には揃っておらず、当時の関係者に資料の提供をお願いしたり、編集委員が手分けをして資料収集を行った。また、100団体からの原稿依頼にも大変時間のかかる作業であった。

普段は100団体がそれぞれボランティア活動を行っているが、互いの活動を理解するために情報交流会（ワールド・カフェ）が開催されるようになった。本誌でも各団体の活動状況が紹介されている。10回にわたる編集委員会を開催し、ようやく発刊にこぎつけることができた。

ここに掲載された団体の活動は多岐にわたり素晴らしいボランティア活動が地域社会で繰り広げられている。ただ青年層や高校生、小中学生の活動が散見されるが、全体からみれば少数であり、次世代に繋がるボランティアを掲げている連絡協議会としては魅力ある団体づくりと若者への啓発活動が今後の課題である。

編集委員長 坂本 和正

編 集 委 員 会

主 幹	吉長 義親	委 員	小川 倍恵
委 員 長	坂本 和正		高山 幸子
副委員長	川中 瀧子		田中紀代美
副委員長	佐伯ノブ子		野口 三郎
			平田 寛容
			山本 寿子
			若槻 秋子